省エネ基準適合義務化と断熱材市場

▶上◀

新聞紙を主原料とするセルロースファイバー（CF）断熱材である「デコスファイバー」の製造・販売・施工を手掛けているデコス（山口県下関市、安成信次社長）は、今年4月からスタートした新築建築物の省エネ基準適合義務化により、「今後の断熱材は、『製品品質×施工品質×環境価値』という三位一体の総合力によって選ばれるようになる」とみている。取締役企画部長であり東京OFFICEの田所憲一所長に断熱材市場の展望と同社の取り組みについて2回にわたって聞いた。

デコス・田所 憲一 取締役企画部長 に聞く

総合力で選ばれる時代に

――省エネ基準の義務化に伴い、断熱材市場はどう変化するか。

田所　今年4月から、省エネ基準（断熱等級4）への適合が建築確認申請時の必須要件となった。これまでの「努力義務」という制度上のグレーゾーンは撤廃され、適合か否かという二択しか存在しない時代となったため、適合しない建物は違法建築と見なされ、是正や改修の対象となる。

――工務店は変化に対応ができるのか。

田所　現在市場に残っている地域工務店や設計事務所の多くは、既に等級4を超える性能を標準仕様としており、HEAT20のG2（断熱等級6）相当が標準仕様として浸透しつつあるので大きな混乱はないといえる。これからの断熱材市場は、制度対応から「付加価値競争」へと移行している中で、今後の断熱材は、「製品品質×施工品質×環境価値」という三位一体の総合力によって選ばれるようになる。

――新築住宅の着工は減少している。

田所　新築戸建住宅の着工数が減少する中、工務店は新たな市場として非住宅建築に注目している。特に工務店の狙い目は相当が標準仕様として浸透しつつあるので大きな混乱はないといえる。これからの断熱材市場は、制度対応から「付加価値競争」へと移行している中で、今後の断熱材は、対応できる断熱材と施工体制が重要といえなければ、「省エネ基準に適合していない」と見なされ、是正・補修・損害賠償などの対応が求められる可能性がある。今後は、「断熱材を使った」ことではなく、「設計通りに性能を発揮しているか」を証明できる体制が施工責任の基本となる。

性能検証が必要に

――断熱施工不良の典型的な原因は。

田所　主な要因として考えられるのは、①柱・間柱間の充填不足や隙間②ダクト・配線まわりの断熱処理の不備③防湿・気密シートの破断や連続性不足④小屋裏・間仕切り壁上部の断熱欠損――が挙げられている。それを防止するには、断熱・気密・防湿を一体的に設計する納まりの明確化をはじめ、「認定施工者による責任ある技術施工の実施」や「写真記録やチェックリストを活用した施工工程管理」であり、「当社はこれまでの施工方法でC値が0.5を切っているので大丈夫」というのではなく、工務店による気密測定や性能検証の導入が必要といえるのではないか。

（次号に続く）

――工務店は変化に対応ができるのか。

田所　現在市場に残っている地域工務店や設計事務所の多くは、既に等級4を超える性能を標準仕様としており、HEAT20のG2（断熱等級6）相当が標準仕様として浸透しつつあるので大きな混乱はないといえる。これからの断熱材市場は、制度対応から「付加価値競争」へと移行している中で、今後の断熱材は、性能を重視する高性能賃貸住宅の市場も拡大しており、住宅供給側にもCC（ライフサイクルコスト）やCO$_2$削減に配慮した設計が求められる。特に工務店の狙い目は延床面積500平方㍍程度の学校・保育園・高齢者施設・店舗などを含む中規模木造・非住宅分野においては、環境（UA値・C値など）を実現できなければ、契約不履行や法令違反として重大な責任が発生する。設計性能が現場で実現されなければ、「省エネ基準に適合していない」と見なされ、是正・補修・損害賠償などの対応が求められる。それに加えて、環境（UA値・C値など）を実現できなければ、契約不履行や法令違反として重大な責任が発生する。設計性能が現場で実現されなければ、「省エネ基準に適合していない」と見なされ、是正・補修・損害賠償などの対応が求められる可能性がある。今後は、「断熱材を使った」ことではなく、「設計通りに性能を発揮しているか」を証明できる体制が施工責任の基本となる。

――省エネ基準義務化の影響は。

田所　制度義務化により、設計通りの断熱性能を含む中規模木造・非住宅分野においては、環境（UA値・C値など）を実現できなければ、契約不履行や法令違反として重大な責任が発生する。設計性能が現場で実現されなければ、「省エネ基準に適合していない」と見なされ、是正・補修・損害賠償などの対応が求められる可能性がある。今後は、「断熱材を使った」ことではなく、「設計通りに性能を発揮しているか」を証明できる体制が施工責任の基本となる。

性能検証が必要に

――断熱施工不良の典型的な原因は。

田所　主な要因として考えられるのは、①柱・間柱間の充填不足や隙間②ダクト・配線まわりの断熱処理の不備③防湿・気密シートの破断や連続性不足④小屋裏・間仕切り壁上部の断熱欠損――が挙げられている。それを防止するには、断熱・気密・防湿を一体的に設計する納まりの明確化をはじめ、「認定施工者による責任ある技術施工の実施」や「写真記録やチェックリストを活用した施工工程管理」であり、「当社はこれまでの施工方法でC値が0.5を切っているので大丈夫」というのではなく、工務店による気密測定や性能検証の導入が必要といえるのではないか。

（次号に続く）